

| | | | | | | | |
|-------|----------|--------|-------------------------------|----|---|-----|-----------|
| プログラム | NEXT産業創造 | 必修・選択 | 選択 | 単位 | — | 学期 | 夏期 |
| 科目郡 | 基礎科目 | 科目名 | 地域マネジメント&ファイナンス | | | 教員名 | 板倉宏昭/三好祐輔 |
| | | (英文表記) | Regional Management & Finance | | | | |

| | | | | | | | |
|--|---|-----------|----|--|--|--|--|
| 概要 | <p>(第1回から第4回：地域マネジメント)</p> <p>地域ビジネスを考えるうえで、必要と考える考え方を解説し、基本的理解に重点を置く。経営に関する基本概念のうち、地域を巡る基本的な考え方を中心にまとめる。事例を取り入れながら客観的に解説し、現実の地域ビジネスにおいて経営学が果たす機能を具体的に理解する。</p> <p>(第5回から第8回：ファイナンス)</p> <p>本講義の目標は、経営者の立場で必要なファイナンスの基礎を修得することである。企業が起業から事業成長する過程で、どのような資金調達手段があり、資金提供を受けるにはどのような要件を満たす必要があるかを学ぶ。本講義を通して、資金制約の中で企業価値最大化の目標を達成するために必要な方法を学ぶと共に、外部からの資金調達に関わる基本的な仕組みについて理解を深める。</p> | | | | | | |
| 目的・狙い | <p>(地域マネジメント)</p> <p>本授業では、経営学に関する基本的な概念を理解し、経営や地域ビジネスに関する関心を深める。経営学と地域ビジネスに関わる基本的な考え方を検討することで、これらの理論が、実務においてどのように有効か、実務に照らして検証する。</p> <p>(ファイナンス)</p> <p>企業価値経営とは、企業が経済的付加価値を生み資金提供者をはじめとする企業の利害関係者の満足度を高めることである。どのような経営戦略が企業価値を高めることになるかを考察する。受講者は、資本市場において企業価値がどのように決まるかの基礎について理解を深めるとともに、企業評価の手法等コーポレート・ファイナンスの基礎的素養を習得することを目的とする。</p> | | | | | | |
| 前提知識 (履修条件) | 企業価値、資本コストの計算など実施に際して使用するエクセル表計算ができる(PC用意)。 | | | | | | |
| 到達目標 | 上位到達目標 | | | | | | |
| | <p>(地域マネジメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 経営戦略や地域ビジネスに関して説明できる。 経営戦略と地域ビジネスが果たす機能を具体的に理解する。 事例について、経営戦略の基本的な考え方を使って、企業戦略や事業戦略の策定や地域ビジネスの策定や実証分析を行うことができる。 <p>(ファイナンス)</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業価値経営をファイナンスの観点から説明できる。 企業価値経営に対するファイナンスが果たす役割を具体的に理解する。 | | | | | | |
| | 最低到達目標 | | | | | | |
| <p>(地域マネジメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 経営戦略や地域ビジネスへの関心を深める。 経営戦略と地域ビジネスに関する基本的な概念を理解し、説明できる。 地域ビジネスについて分析方法を理解する。 <p>(ファイナンス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ファイナンスへの関心を深める。 企業価値経営とファイナンスに関する基本的な概念を理解し、説明できる。 | | | | | | | |
| 授業の形態 | 形態 | | 実施 | 特徴・留意点 | | | |
| | 遠隔・対面授業 | | ○ | 第1-4回：対面講義、第5-8回：遠隔講義 | | | |
| | 授業形式 | 講義(双方向) | ○ | 教科書(地域マネジメント)に沿って進める。解説、問題演習、ケース討議の順番で進める。 | | | |
| | | 実習・演習(個人) | ○ | | | | |
| | 実習・演習(グループ) | | ○ | | | | |
| サテライト開講授業 | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |
| 授業外の学習 | <p>(地域マネジメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 予習：教科書を読む。教科書の問題集とケースを事前に解くことが望ましい。 | | | | | | |

| | | |
|-------|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・復習：学んだ部分を中心に、教科書解説、教科書の問題、ケースを読み返す。 ・レポート、課題が指示された場合は、その課題に取り組み、期日までに報告すること。 (ファイナンス) ・予習：レジュメ (パワーポイント) を配布する。 ・復習：学んだ部分を中心に、自らが選定した企業について講義で扱った内容を反復する。 | |
| 授業の内容 | <p>(地域マネジメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業経営・事業展開で必要とされる経営戦略の基本的理論構成とその体系、経営戦略構築、組織戦略を学ぶ。 ・地域ビジネスの構築・実行・評価のための枠組み・手法を修得する。 ・教科書を用いた解説、問題演習、ケース討議の順番で進める。 ・ケースは、教科書のショートケースを用いる。 <p>(ファイナンス)</p> <p>企業の経営戦略や投資戦略において、リスクに見合ったリターンを獲得するためには、ファイナンスの知識の修得は不可欠である。この領域に関する知識がなければ、過度にリスク回避的になるか、あるいはリスクを負担し過ぎる行動に陥ることになる。本講義では、新規開業企業・ベンチャーやアントレプレナーシップ (企業家活動) が有するファイナンスに関する現代的意義と課題について考察する。そしてワークショップを通じて、具体的な事例を考察する能力や洞察を得るスキルを修得する。ワークショップでは、チームごとに分かれ、講義で学んだファイナンス的アプローチを活用し、プレゼンテーションを実施する。</p> | |
| 授業の計画 | 回数 | 内容 |
| | 第1回 | <p>経営の基本視点</p> <p>経営学の意義 (経営学の定義、企業活動と経営学・経営戦略) 米国の経営学・経営戦略論の流れ、経営学の性質、経営学上の人間観 (限定された合理性)、企業の目標 (利潤最大化説、複数目的説、ステークホルダー志向)、コストリーダーシップ戦略、差別化戦略、集中化戦略の3つの経営の基本戦略、競争優位性、市場と組織の競争優位の源泉、理念・ビジョン、経営戦略の構造、戦略の策定。</p> |
| | 第2回 | <p>分析の手法</p> <p>経営学のデザイン志向、経営学のデザイン志向、ビジネスモデルデザイン (教科書 9.5)。 3つの基本戦略 (コストリーダーシップ戦略、差別化戦略、集中化戦略)。</p> |
| | 第3回 | <p>地域と経営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本的経営 (ネオ資本主義、生産システム、多能化、不完全な分業、知的熟練、双対原理、競争と日本企業) を米国や欧州の企業システムと比較して理解する。日本の企業システムを「ネオ資本主義」とも呼ぶ特徴を理解する。日本的経営の起源、今後の日本的経営、日本的経営のメリット、デメリットを理解し外国との経営システムとの比較に基づき今後の経営システムについて考える。 ・地域活性化の要因は何か。地域コミットメント、地域価値連鎖 (バリューチェーン)、外部力 (ヨソモノ) と内部力 (ジモティ) の新結合、3S (サイト・スペシフィック・ストーリーテリング)、超産業化などについて学ぶ。 |
| | 第4回 | <p>地域ビジネスのケース</p> <p>「高知県馬路村の柚子ビジネス」 「徳島県神山町のサテライトオフィス (神山バレー)」 などを予定している。</p> |
| | 第5回 | <p>ベンチャーファイナンス (VCと資本政策他)</p> <p>Key word: 資本コスト, IRR, Jカーブ</p> |
| | 第6回 | <p>課題提示とワークショップ発表</p> |
| | 第7回 | <p>事業計画と企業価値 (CAPM、DCF他)</p> <p>Key word: ベータ値, 割引現在価値, 成長率</p> |
| | 第8回 | <p>課題提示とワークショップ発表</p> |

| | |
|--------|---|
| 教科書・教材 | 板倉宏昭『新訂 経営学講義』勁草書房 2017年 |
| 参考図書 | 板倉宏昭他『地域バリューチェーン—持続可能な地域を創る—』勁草書房2021年 板倉宏昭他『ネットワークが生み出す地域力』白桃書房 2008年 板倉宏昭他『アートゾーンデザイン地域価値創造戦略』同友館 2016年 三好祐輔,「地域活性化のための処方箋」(九州大学出版会) 総302頁(単著),2019年 |
| 成績評価 | グループレポート・発表 50%、個人レポート 50% |